



発行・カトリック水巻教会
編集・広報委員会
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
〒807-0025
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
第391号

「明けましておめでとうございます」

信徒会長 上川 直子

昨年は、主任司祭として谷口神父様をお迎えしました。また役員、委員会の改選もあり、新しい体制で神父様と共にスタートを切りました。いつも教会の活動、ご理解、ご協力に心から感謝申し上げます。

そして教皇様の38年ぶりの来日は、喜びと改めて信仰を持って生き抜くお言葉を私達に残してくださいました。

2019年、振り返ると本当にいい1年となりました。

私達の教会も、ここ数年は時代の流れ、移り変わりを肌で感じる事がありました。

最近子ども達、外国人の人達も教会に集まって来てくれています。とても明るく賑やかになりました。若い人達が、この教会を支えてくれている事に本当に嬉しく思います。

今まで、支えてくださった先輩達が残してくれた財産、歴史、そして思いを次の世代の人達に私達が少しずつでも伝え、継承していける1年になればと思っています。

今年も昨年同様、皆さんにご協力していただき信頼に支えられながら、良い活動が出来ればと思っています。

今年もよろしくお願いたします。



| | |
|-----------------|------|
| 盗人のように..... | 2・3面 |
| 感謝して..... | 3面 |
| 特集・長崎教皇ミサ..... | 4・5面 |
| ガンバ2・黙想会..... | 6面 |
| 教会学校より..... | 7面 |
| 幼稚園から..... | 8面 |
| 委員会報告..... | 9面 |
| お知らせ・今月の聖人..... | 10面 |

盗人のように衝動に駆られて信仰宣言を 谷口 尚志神父

教皇訪日に沸き、その余韻が残るなかで迎える2020年、私たちにとってどんな一年になることでしょうか。

あれほど熱気を帯びて報道されていた教皇来日の話題は今では鳴りを潜め、どこか寂しさを感じます。教皇の姿はこのまま遠い過去のものになってしまうのでしょうか。「教皇の姿とスピーチが報道され、信じていること、カトリック自体のことを知ってもらえただけでも良しとすべき」と感じられたら、その人にとってはそれでいいのかも知れませんが、わたし個人としては簡単に割り切ることができません。教皇訪日の体験を糧とし、人生を歩むうえでの目標を掲げようと心に決めたからです。それは個人的なものではなく、周りの人と協力していくことで掲げることができる目標です。

現代社会に生きる人は誰もが社会のニーズに應えるために、ブームに乗り遅れないようにと忙しく毎日を過ごしています。それが自分を成長させる機会になるからでしょうし、社会が、そして時代が何を求めているのかを知ることで社会生活を送りながら自分と他人とのつながりが深まっていくという実感があるからでしょう。しかし、その感覚についていけない人は隅に押しやられ、生きることに疲れていきます。反対に、実感している人は実感している人で、社会が求める結果についていかななくてはならないために周りを見る余裕がなくなり、ある人は次第に燃え尽きていくのです。結果、「わたしはわたし、あなたはあなた」という言葉が飛び交うようになります。この言葉、実は相手を尊重したのではなく、無関心によって発せられた言葉です。

今回の教皇訪日についても同じことが言えるのではないのでしょうか。教皇が来ようが来るまいが、何を語ろうが語るまいが、誰かが心を動かされようが動かされなかりょうが、「わたしはわたし、その人はその人」。仮に本当にその人を尊重する言葉が口から出てくるならば、「わたしはその人のため、その人はわたしのため」というものになるはずです。だから、教会は周りの人に突き動かされなければなりません。そのために、教皇の姿や言葉に慰められ、希望を抱き、突き動かされる姿を吸収し、支え合わなくてはなりません。

「あの日、カルワリオでは、多くの人が口を閉ざしていました。他の大勢は嘲笑し、盗人の声だけがそれに逆らい、苦しむ罪なきかたを擁護できたのです。それは、勇気ある信仰宣言です。わたしたち一人ひとりが決断することです。沈黙か、嘲笑か、あるいは告げ知らせるか。」(2019年11月24日、長崎。王であるキリストの祭日ミサ「説教」より)

まずお互いに、カルワリオの丘に立てられた十字架上の盗人の姿に突き動かされましょう。キリストに呼ばれた者としての使命である信仰を証して生きることを、教会共同体と共に、家庭共同体と共に、社会と共に。

活水²

感謝して

折尾地区 傍士 貴子

活水の記事を頼まれた日は、神父様が信仰心とは神様が与えるものであって自分が決めるものではないとのお説教のあとだったので“私みたいな……”と叫びかけて…引き受けますって答えてしまいました。

何について書くのですか？と質問したところ自分の信仰についてって事だったので、まず“信仰”とパソコンに入力してみました。ウィキペディアには“神や仏を信じること”そう書いてありました。

私が洗礼を受けたのは小学2年生の時、いわゆる幼児洗礼です。聖母幼稚園だった事もあり、幼い頃から神様が近くにいました。

毎週日曜日のミサ、土曜日学校へと通い、思春期には意味のない行きたくない病にもかかり、ミサも今のようにあずかることはありませんでしたが、怖い母と叔母のおかげで思春期の時も就職してからも結婚しても教会から離れることはそうありませんでした。

“感謝しなさい”と母によく言われていました。私はその感謝の意味や幼児洗礼と言うと“お恵みね”って言われることがよく分かりませんでした。

でも大人になるにつれて、人の悩みは大きくなり自分が持っている言葉や考えでは解決できないことが起こります。

自分自身の事、家族の事、仕事の事、苦しいこと、辛いこと、分からないことが多々あります。そんな時は昔聞いた神父様やシスターの言葉、聖書の言葉、母や叔母の教えが私の心をいっぱいにしてくれます。そして勇気をくれます。恵をくれます。

私にとって信仰とは生きていく私の姿、姿勢だと思えます。そうになりたい、そうなっていこうとする思いだと思っています。

幼い時に神様と出会い、たくさんの言葉を長い年月をかけて聞く事ができた幼児洗礼はお恵みであり、教会から離れる事なく叱りながらも連れて来てくれ母や理解してくれる父、全ての事に感謝なんだと思えました。

神様から与えてもらった信仰のお恵みに感謝して、今日も大切に生きていこうと思います。

特集 “長崎の教皇ミサ” バス参加者41名 ～

沢山の方々に支えられて～ 岩本 ナセ

日本を司牧訪問した教皇フランシスコは 11 月 23 日、「日本のカトリック信者の半数以上を占める多数の外国人労働者を親切に受け入れ世話することは、日本社会の中で福音のあかしとなるだけでなく、教会があらゆる人にかかっていることの証明にもなります」と教皇庁大使館で日本の司教団を励ました。(カトリック新聞 12月1日)

11月24日“長崎の教皇ミサ”終了後、会場出口通路の端の方で大勢の外国人労働者の青年たちが集合写真を撮っていた。ベトナムの青年たちの笑顔と楽しそうな姿だった・・・

待ちに待った“長崎の教皇ミサ”に水巻教会が準備したバスで、出発する日が来た。11月24日朝6時53分「ベトナムの青年は自転車がパンクして電車で向かっています、でも定刻になったら出発してください」と谷口尚志神父の挨拶に、バスに乗っている40名全員に緊張が走る。“長崎の教皇ミサ”への厳重な警戒態勢、遅れば入場が出来なくなる！？！？その直後「アッ！来た、間に合った！」拍手で迎えられ、彼の笑顔、定刻7時無事出発。木場サービスエリアでは大雨の中、トイレ前には長蛇の列「教皇が空港に到着したので40分間道路閉鎖になる！急いで！」と警察官から脅されながら、なんとか通過できた。会場に到着した時はレインコートに身を包み、長い入場手続きの列に並び。入場を終えた頃には雨が止み、青空が広がってきた。午後1時半過ぎパパムービシに乗った教皇が登場、大歓声の中笑顔で手を振りながら会場を周る。この日は「王であるキリスト」の祭日にあたり、福音はルカ23章の、イエスと共に十字架にかけられた2人の犯罪人の話が朗読された。教皇はそれについて説教した。「わたしたちは悔い改めた盗人と同じように、一苦しむ罪なきかた、主イエスを弁護し仕えるために一黙りも嘲笑もせず、むしろ自ら声を上げましょう」途中から雲一つなく、太陽が眩しいほど輝き、暑さを感じるほどになった、共同祈願は日本語に加えスペイン語、韓国語、タガログ語、ベトナム語でも行われた。

帰りのバスは順調に走行、途中のトイレ休憩2回も予定時間内に済ませ、予想通りの8時に水巻教会・谷口神父様の笑顔に迎えられ無事帰り着いた。

ベトナムの青年4人の費用は谷口神父様のポケットマネーから、バス会社と弁当屋さんは中間地区川島さんに紹介して頂くなど、準備の段階から沢山の方々に支えて頂き、豊かな恵みを味わう一日となった、感謝！！



感謝のうちに

永谷 律子

11月24日7時、出発時には雨は降っていませんでしたが、途中から雨が降り出し、会場に着いた時には雨と雷。それが座席ブロック席に着く頃には小雨となり、ミサが始まる時には、太陽も顔をのぞかせ、寒さを感じるより、暑さが気になるほどの天気となりました。

最初にたくさんの司祭の入場、そして教皇様の入場。割れんばかりの歓声。映し出されるスクリーンの中の教皇様のほほ笑み。同じ場所にいる。いられたことに感謝の気持ちで一杯になりました。

いろんな人が集まる中、多言語で行われる荘厳なミサ。ことばは違っても心を一つにして祈りを捧げることができたのではと思います。

“すべての命を守るため ～PROTECT ALL LIFE～

「世界にはいのちと平和に関する諸問題が山積しています。私たちは、あらゆる命を守り、人間の生の諸問題に真摯に向き合い、キリストによる平和のために祈り、働くことができるように決意を新たにし、神様の助けを願いたいと思います」(教皇来日テーマを要約)

最後に、教皇様の来日にあたり、様々な形で尽力してくださった方々に感謝すると共に、具合が悪くなられた方の回復をお祈りいたします。



典礼委員会の活動

松尾 隆

教会の典礼を支えるグループとして様々な奉仕活動があります。典礼委員会はこれらグループのメンバー及び代表者によって構成されています。

委員会の定例日は毎月第四木曜日の午後19時30分です。平日の夜に行われるので準備をよくして迅速に行うように心掛けています。

委員会ではそれぞれのグループから提起される事案を始め、主日のミサの準備、四旬節、復活祭、降誕祭などの典礼全般について皆で一緒に考えています。

典礼委員会が他のグループと違う所は、必ず神父さまが出席して行い、同意を得ると言うところです。この点に関しては他のグループも基本的には同じと思いますが、神父様がすべてのグループに顔を出すとすることは不可能なので、相互連絡を常に取り合うことが大切になります。

又、神父様方は定期的に異動されます、それぞれが大切にしているものがあり、皆同じではありません、神父様が変わるたびに、典礼の表現が多少違うのは、そこからきてると思われまます。そういった神父様の意向をくみとりながら典礼を考えることも委員会の大切な役目です。神父様と一緒に考えることにより、その意図する所を理解することが出来ます。

又、聖堂は祈りの場、特にミサが始まる前は神に心を向ける、大切な沈黙のひととき聖堂の雰囲気作りを、皆さんと一緒に考えたいと思います、よろしくご協力をお願いします。

次号は「冠婚葬祭委員会」にバトンタッチ



黙想会 「見えないものを信じる大切さ」

講師：谷口神父様

待降節の第2週目にあたる12月8日(日)ミサ後、黙想会が行われました。講師には谷口神父様が当たってくださいました。テーマは「見えないものを信じることの大切さ」で、神父様は用意してくださったプリントを配布、分かりやすく解説してくださいました。

「信じることによって、見えない過去と、見えない未来をつかむことができる」
 「信仰は第一に、過去や現在、未来の不確かな現実には落胆することなく生きようとする者に、神ご自身が与えてくださるもので、希望を持つ姿と結びつくことでさらに深まる」

参加者は67名でした。

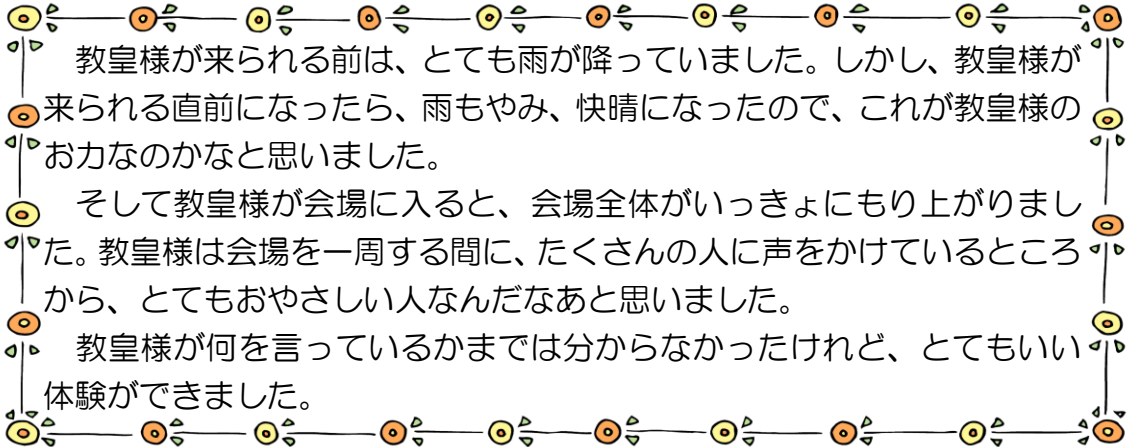
教会学校のページ



教皇様はおやさしい方

山田 連




 教皇様が来られる前は、とても雨が降っていました。しかし、教皇様が
 来られる直前になったら、雨もやみ、快晴になったので、これが教皇様の
 お力なのかなと思いました。
 そして教皇様が会場に入ると、会場全体がいきよにもり上がりまし
 た。教皇様は会場を一周する間に、たくさんの人に声をかけているところ
 から、とてもやさしい人なんだなあと思いました。
 教皇様が何を言っているかまでは分からなかったけれど、とてもいい
 体験ができました。



この写真は、人の顔写真で構成された、教皇様です。
 スタジアム入り口に展示されていました。皆様、気が付かれましたか？



水巻聖母幼稚園 マリア子どもの家 1月のお知らせ

いつも皆様のお祈りとお支えいただき感謝申し上げます。

<水巻聖母幼稚園>

12月7日(土)に、クリスマス生活発表会を行いました。聖劇を通して、イエス様のご誕生をお祝いし、喜びにあふれる一日となりました。

年長児はお泊まり保育で砂浜のごみ拾いを体験したことをきっかけに海洋汚染・土壌汚染・大気汚染について調べ、発表しました。セリフは子どもたちが家庭で調べてきたことをもとに考えました。この学びをより深める為に、八幡東区にある環境ミュージアムに園外保育に出掛けました。物を大切に使う、繰り返し使う、リサイクルをすることが地球を守ることに繋がります。これからもみんなが幸せに生きていく為に、地球の未来について考えていきたいですね。



【もちつき】

1月11日(土)

水巻聖母幼稚園 Tel: 093 201 9559

e-mail: contactus@mizumakiseibo.ed.jp

<マリア子どもの家>

12月になり、急に寒い日が続き、11月までの暖かさが嘘のようです。いつも、外に出ると、まず「よーい、ドン」の駆けっこをするのですが、寒い日は、「もー1回」「もー1回」とほっぺが赤くなるまで走っています。

プランターに子ども達と植えたピオラやスノーポール、アリッサムが、可愛い花をつけ、見る度に元気をもらいます。そら豆も、芽を出し少しずつ大きくなっています。みんな、寒さを糧とし大きくなーれ!



Tel: 050 5212 7759

HP: 水巻町マリア子どもの家

水巻聖母幼稚園・マリア子どもの家

園長 シスター松川明子・職員 一同

委員会等報告

2019年12月分

12月度小教区委員会 12月1日

1. 行事予定

- ・1月 1日(水) 元旦ミサ 10:00～
成人のお祝い、車の祝別、新年茶話会
- ・1月12日(日) 小教区委員会
- ・1月17日(金) 役員会 19:00～

2. 議題

(1) 各委員会報告

①広報委員会より

- 12月のからしだね記事について
- ・2020年に向けての抱負
- ・教皇様の訪日ミサへの参加

②典礼委員会より

●クリスマス関連：

- ・12月22日(日)典礼のリハーサル予定
8：30～

- ・去年とのクリスマス典礼違い：共同祈願

は朗読台にて

- ・ポスター準備

●大人のカテキズム：

所作や典礼用品の説明などをする計画

③冠婚葬祭より

- ・結婚式の時、司式中の写真撮影は祭壇の

1段下の花の外側まで上がってよい。司式後の記念撮影時は祭壇の1段下の所まで上がって良い。

と再確認した。

④納骨堂委員会より

- ・連絡先確認を行う予定

⑤宣教委員会より

●教皇訪日ミサ報告

- ・41名の参加で、怪我人も大きなトラブルもなく無事に完了しました

(7時出発、20時帰着)

【収支】収入：162,000円、支出：189,432円、教会からの補填：27,432円
←4000円/大人(子供は半額)

⑥営繕委員会より

- ・印刷機の調子悪い

➡古くて交換部品なし。取替見積もりを撮る予定。

(2) 2020年度予算(案)

予算案の説明を実施

➡1月に教区へ提出する予算案として、了解を得た

ミサの前には心の準備を

日曜日のミサの前、聖歌の練習をしています。現在5分前には切り上げていますが、もう少し沈黙の時間が欲しいとの申し出が小教区委員会で上がりました。聖歌を練習することも大事ですが、ミサを静かに待つのも「心の準備」として大切です。ミサを預かる前には、心を静めて待ちましょう。聖歌の練習は短時間に集中して…

1月のおしらせ

★元旦ミサ★

1月1日(火) 午前10時 元旦ミサ
成人のお祝い、車の祝別、新年茶話会があります。

★聖書100週間感謝ミサ★

日 時：1月15日(水)12時～
場 所：水巻教会
聖書100週間が最終日を迎え、最後にミサを捧げます。ミサだけの参加もできます。

★特別献金★

12月1日 宣教地召命促進の日献金
34,990円
ご協力、ありがとうございました。

人-ひと

【帰天】安らかに！

12月6日
◇ペトロ 眞浦 光雄さん

(海老津地区)



今月の聖人 3日 イエスのみ名

「イエス」という名は、ヘブライ語の一般的な名前である「ヨシュア」にあたり、ギリシャ語化したものは「イエス」です。ヘブライ人にとって、名前は重要な意味を持ち、特にその人が果たすよう託された使命と結びついていました。マタイ福音書には、ヨセフの夢に天使が現れ、「イエス」と名付けるように告げられたことが記されており(マタイ 1.21)、「イエス」は「主は救い」という意味です。

「イエスのみ名」に対する信心は初代教会の時代からありました。中世にクレルヴォーの聖ベルナルドは、著書『雅歌について』の中で、「流れるその香油のようにあなたの名はかぐわしい(雅歌 1.3)」という箇所をイエスのみ名と関連づけて、美しく説明しました。こうして彼は、み名に対する信心の基礎を作り、多くの人々に影響を与えました。

アシジの聖フランシスコは、イエスのみ名に対する崇敬に熱心で、フランシスコ会においてさかんになりました。シエナのベルナルディノは、苦しみに打ち勝つためにイエスのみ名を呼んで祈り、人びとにも薦め、病気がいやされるなどの奇跡が起きました。この信心はフランシスコ会やドミニコ会によってさかんになりました。「み名の連願」はシエナのベルナルディノとフランシスコ会原始会則派の総長代理であった、カペストラノのヨハネによって作られたと言われています。

1530年、クレメンズ7世はフランシスコ会に、教会の祈りにおいて、「イエスのみ名の典礼」を唱える許可を与えました。2002年、ヨハネ・パウロ2世は任意の記念日として典礼暦に加えました。

